

貿易赤字は「国富の流出」か？

千葉の県人 鎌田 留吉 2013年12月17日 記

このところ毎月のように貿易収支の赤字が続いている。そのことを「畏怖」するひとは多い。①日本は「無資源国」であり、生存に必要なエネルギーと食糧を輸入に頼っている。②貿易赤字の状態が継続すると、これら物資が手にはいらなくなり、日々の生活に困窮することさえ考えられる。③一定の貿易黒字を確保しないと日本経済や日本社会は持続不可能になる。④貿易赤字は「国富の」流出ともいえるのだ。

①については全くそのとおりであろう。ただその輸入量を減らす努力は足りていない。

②について。国際収支総括表の左部分は貿易収支を中心とした経常収支、右部分は資本の流れを示す資本収支に分かれる。そして「左辺+右辺=0」という等式が成り立つ。経常収支には貿易収支と所得収支が含まれ、現在日本は毎年10数兆円の所得収支があり、貿易収支の赤字を埋めて未だに黒字である。物の輸入になんらの痛痒を感じる必要はない。

③について。戦後すぐの焼野原であった日本は確かに物資不足であった。今の世界のように金余りでもなく、global化も進んでいなかった為、日本は、輸入原資を世銀やIMFからの融資に頼らざるを得なかった。そして、繊維等から始まってその時代に応じた産業群を上手く育成させ年年の輸入原資を稼ぎ出し、やがては貿易黒字を生み出し、その黒字を積み重ねていった。貿易収支の黒字は即ち資本収支の赤字となる。資本収支の赤字とは居住者の外貨資産の増加。または非居住者の円資産の減少と定義される。つまり貿易収支の累積は対外資産の増加であり、その累積の結果が日本の対外純資産となって実っている。そして今やその額はダントツの世界第一位296兆円である（因みに第二位は中国の150兆円、第三位はドイツの121兆円）。大分以前から毎年の輸入物資を賄うためならば、貿易収支を「黒字」にする必要は全くなく、少なくともツーペイチャラでよかったのである。

④にもかかわらず、「黒字を必要とする日本」というトラウマが人々の頭の中に刷り込まれ、貿易赤字は「国富の流出」であるといった意味不明で emotional な発言が無批判に余程の人の口からさえ出るのは何故なのか？それは供給過剰になった経団連を中心とする輸出企業群と経済産業省のプロパガンダが功を奏したからであろう。つまり、国内の市場だけでは果たせなくなり、外に向けざるを得なくなった自分達の利益追求行為を、国家的意義をもった行為として正当化させる「論理」として「貿易黒字必要論」は使われ、人々は洗脳されきったのである。

更に言うならば、貿易赤字が更に更に増大し、所得収支の黒字でも賄えず、経常収支が大赤字になったとしても、何も恐れる必要はないのだ。日本は31年の長きに亘り毎年10兆円から20兆円の貿易収支の黒字を積み重ねてきた（実はこの行為は国際的収支バランスの視点からは許されざる行為である）。そして形成された296兆円は日本国経済を活性化させるお金としては機能していない。アメリカ等経済の活性化資金として貸しおかれているのだ。貿易収支の赤字とは、296兆円の貸付金のごくごく一部を日本に返還してもらおうという性格を持った営みなのである。

以上